

KYOAI GLOBAL VISION

(共愛学園前橋国際大学国際化ビジョン)

<育成する人材像>

共愛学園前橋国際大学は、「共愛＝共生の精神」を建学の理念とし、「国際社会のあり方について見識と洞察力を持ち、国際化に伴う地域社会の諸課題に対処することのできる人材の養成」を教育の目的に据えて、教育活動を実践している。すなわち、グローバル力と地域力の育成を総合しながら、グローバル化する地域の中で「共愛＝共生」を体現し、人々を繋ぎ、牽引する人材を育成することこそが、本学の使命である。

今、国際はグローバルと表現される。インターナショナルからグローバルへの推移は、そのまま、我々の生活圏そのものが地球規模の流れの中に位置づくことを意味する。その中において特に、本学の学生たちの多くが生まれ育った群馬県は、実質的な意味においてその流れの真っ只中にある。そのような地域においては、日常生活にあっては多文化を理解・活用しながら人々をつないで地域を活性化しつつ、就業の場においてはいつでも海外に飛ぶ力を持ち、現地の人々とのコミュニケーションを通して、地域と世界とを繋ぐことができる人材が必要なのである。更に言えば、次世代のグローバル人材を育てることのできる人材をも地域は求めている。

これらのことを踏まえ、生活も産業も教育も、更なるグローバル化が加速する次世代の地域において、つながりを意識しながら、人々を、そして地域と世界とをつなげ、地域を牽引することができるリーダーこそ、本学が育成するグローバル人材象であると言え、よって「**次世代の地域社会を牽引するグローバルリーダー**」を本学の国際化ビジョンのもとで育成する人材像に据えるものである。

<人材要件と育成>

「次世代の地域社会を牽引するグローバルリーダー」とは、地域に根差しながら、地域と世界を繋ぎ、海外の人材、物流、活力を地域に取り込み、地域の振興を先導する人材のことを言い、そのような人材に求められるのは、「英語（＝語学力）によるコミュニケーション能力」「主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感」そして、「異文化に対する理解と地域人としてのアイデンティティ」である。

これらの素養を育成するために、語学教育の充実、海外体験の充実、地域体験の充実、アクティブラーニングの充実にとり組んでいくものとする。

<取組>

1. 学内の国際化

- a. 外国人教員等（外国人教員並びに海外で学位を取得するなどした日本人教員）を一定割合含む、教員集団を構成する。
- b. 学内の国際化を推進するため、グローバル化に伴うSD研修を実施する。
- c. 外国人留学生、並びに海外交換留学生を毎年一定数受け入れることとし、そのために、留学生入試、留学生への学費減免、交換留学生のための国際寮の運営等を行い、受け入れ環境を整備する。

2. 学生の海外留学の促進

- a. 多様な留学経験を提供できるよう、学生のニーズや育成する人材要件に照らした多くの留学プログラム、実践的海外研修プログラムを用意する。
- b. 学生の海外留学を促進するため、長期の留学を希望する者への奨学金や留学や海外研修を支援する部署並びに専門員を配備する。

3. 外国語教育の充実

- a. KYOAI ENGLISH PROGRAM や中国語インテンシブプログラムにおいて、レベル別クラスの編成や段階的な語学学習カリキュラムを整備する。
- b. 英語のみで実施される授業を一定数開講する。
- c. 海外とのインターネットを活用した 1 対 1 英語学修プログラムを導入する。

4. 海外大学等との連携

- a. 学生の多様な海外経験機会を整備するため、積極的に海外大学との連携協定の締結を進める。

5. 大学等の所在する地域のグローバル化への貢献

- a. 学生の海外経験を担保するために、地域企業や教育委員会と連携し、海外プログラムを構築したり、地域の社会人や子供たちのための学習機会を提供していく。

<目標>

1. 外国語カスタンダード

大学全体の外国語カスタンダードを TOEIC600 点、中国語検定 2 級と定め、卒業時にそれらを満たす学生の割合を毎年 20% とすることを目標とする。なお、英語コースの学生のスタンダードは TOEIC700 点とし、卒業時に満たす学生を毎年 30% とする。

2. 留学者数

海外留学・研修（短期含む）への参加学生の割合を毎年全学生の 15% と定める。また在学中に一度でも海外留学・研修を経験した割合を卒業生の 50% とする。

3. 外国人教員等の数

外国人教員等の割合が 50% となることを目標とする。

4. 留学生数

正規留学生並びに交換留学生の割合が、毎年全学生の3%以上となることを目標とする。

5. グローバル化対応のためのSD開催回数

他大学等との共催や海外の大学の大学での研修を含み年1回以上開催することを目標とする。